

2006年4月からスタートした6年制薬学教育では、「モノ」中心から「ヒト」指向へと大きく変革した。その後、文部科学省主導でモデル・コアカリキュラムの見直しに関する議論が重ねられ、2015年4月から改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく教育が行われている。改訂版では、大学の教育と病院・薬局での実務実習とを体系的に関連づけ、基礎から臨床までの総合的な6年間の学習を求めている。そして、学習成果基盤型教育(outcome-based education)に力を置き、「薬剤師として求められる基本的な資質」10項目が明示され、卒業時に必要とされる学習成果として位置づけられている。

このような新しい薬学教育を推進するためには、優れた教科書が不可欠といえる。しかし臨床薬学の領域は、基礎薬学に比べてまだ歴史が浅く、実践的な臨床能力を有する薬剤師養成のためには、医師と薬剤師との連携による薬物治療の最前線を反映した、適切な教科書の刊行が望まれる。このような状況に鑑み、このたび臨床薬学のエキスパートを養成する全国薬系大学の教科書として、《臨床薬学テキストシリーズ》全10巻の刊行を企画した。

本シリーズの編集方針は、以下の5点を主な特徴としている。

- 1) 薬学と医学のコラボレーションにより、構成内容を精選するとともに、従来の教科書にない医療・臨床的な視点、記述を充実させる。
- 2) 各巻の編集にあたっては、担当編集者(責任編集者)に加えて、薬学と医学からゲスト編集者を招き、内容の充実を図る。
- 3) 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した内容とし、必要に応じて最新の知識を盛り込む。
- 4) 冒頭に項目ごとのSummary(ポイント)を明示し、また用語解説、コラム、トピックスなどを適宜組み入れ、理解の促進を図る。
- 5) 学習内容、理解度を知るために、国家試験問題の出題傾向をもとに作成した確認問題を掲載する。

このような新しい編集方針のもとで刊行された本テキストシリーズが、臨床薬学を学ぶ薬学生の必携の書として、また医療現場で活躍する薬剤師の座右の書として、広く活用されることを願っている。

2016年11月

乾 賢一

薬理学は、医薬品の有効成分である薬と生体の相互作用について、分子、細胞、組織、臓器、生体のさまざまなレベルで総合的に研究する分野である。薬理学を含むさまざまな科学領域を結集して創製された医薬品を患者に投与する治療の総称が薬物治療である。疾病の治療においては、症候・臨床検査にもとづく診断と治療が基本となっており、薬物治療にかかわる薬剤師には、症候・臨床検査、薬の薬理作用と作用機序、薬物動態、安全性など、医薬品にかかわる多様な領域を修得することが求められる。さらに、医療現場において、薬剤師には、医薬品に関する専門家として医療チームに積極的に参画し、医療現場における最適な薬物治療を追及することが求められている。

21世紀に入って医療が大きく進歩してきたが、一方で、極端な高齢化社会（超高齢社会）を迎えつつある日本においては、高齢者の健康の維持と疾患の治療が重要な課題になってきている。さらに、個別化医療など新しいタイプの医療が急速に発達しており、医薬品でも従来の低分子医薬品に加えて、抗体医薬品、核酸医薬品などの高分子医薬品が増えてきている。個別化医療との関連では、バイオマーカーによるコンパニオン診断の機会も増えている。まさに21世紀型医療への展開が進みつつある中で、診断から薬物治療に至る医療薬学領域を修得し、患者のために役立つ医療・薬物治療の担い手となることを、薬剤師となる薬学生には目指していただきたい。

本書は、1) 薬物治療の総論、2) 身体の病的変化から疾患を推測できるようになるための症候・臨床検査、および、3) 遺伝的背景や生理的状态などの個人差にもとづいて最適な治療法を選択する個別化医療の3つの領域を対象とする。これらの領域は、薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）における「E1 薬の作用と体の変化」および「E3 薬物治療に役立つ情報」の中の「(3) 個別化医療」に掲げられている内容に相当する。「E1 薬の作用と体の変化」には、「(1) 薬の作用」「(2) 身体の病的変化を知る」「(3) 薬物治療の位置づけ」「(4) 医薬品の安全性」の4つの項目が含まれており、本書の第1章と第2章で取り扱われる。この内容は「E2 薬理・病態・薬物治療」の基盤となるものである。本シリーズ『臨床薬学テキストシリーズ』においては、本書を修得してから、薬理・病態・薬物治療にかかわる各巻を学習することを薦める。

最後に、本書にかかわる医学・薬学の領域は絶えず進歩、発展していることを強調しておきたい。とくに、目覚ましいイノベーションが進む生命科学や医療研究の成果は、新規の医薬品開発や薬物治療の革新をもたらしている。学生諸君が本書を学ぶことにより、薬剤師、薬学者として必須の医療薬学の知識・技能・態度を身につけるとともに、医療の進歩に貢献するためのステップを踏み出すことを期待する。

2018年11月

赤池昭紀